

国立工芸館 心象工芸展 関連イベント

トークショー

私小説を表現すること



登壇者 沖潤子氏



撮影：橋本憲一

登壇者 高橋賢悟氏

国立工芸館の展覧会「心象工芸展」（9月6日～12月1日）に関連し、心象工芸展出品作家の沖潤子氏、高橋賢悟氏のお二人をお招きし、「私小説を表現すること」をテーマにお話を伺います。

日時：令和6年9月7日（土）
午後1時30分～午後3時（開場 午後1時）

場所：国立工芸館 多目的室
（金沢市出羽町3-2）

参加費：無料（要事前申込・要観覧券）

定員：45名

ファシリテーター：岩井美恵子
（国立工芸館工芸課長、本展企画者）



↑ WEB(Peatix)より
お申込みください

お問い合わせ：
国立工芸館
☎ 050-5541-8600
（ハローダイヤル）

【登壇者プロフィール】

沖潤子（美術作家）

1963年埼玉県生まれ。1991年セツモードセミナー卒業。現在は鎌倉市を拠点に制作している。裁縫が得意だった母の遺した道具と布にインスピレーションを受けて、独学で作家活動を始める。古布や異素材を縫い合わせる刺繍表現は、記憶の重なりや感情の高まりを呼び起こす。主な展覧会に「沖潤子 さらけでるもの」（神奈川県立近代美術館 鎌倉別館、神奈川、2022年）、「anthology」（山口県立萩美術館・浦上記念館、山口、2020年）など。

高橋賢悟（鋳金作家）

1982年鹿児島県生まれ。2022年東京藝術大学美術学部工芸科鋳金研究室博士課程修了。川口市に工房を構える。2011年の東日本大震災をきっかけに動物の頭蓋骨に小花を加飾した〈flower funeral〉シリーズの制作をはじめ。精密な造形が可能なアルミの真空加圧鋳造という技術を用いて、「死と再生」をテーマに生命の尊厳を表現する。「驚異の超絶技巧！ 明治工芸から現代アートへ」（三井記念美術館、東京、2017年 ほか各地を巡回）の選出を皮切りに、数多くの美術館での展覧会に参加。

【展覧会のお知らせ】

会期

2024年9月6日(金) - 12月1日(日)

休館日

月曜日

(ただし9月16日、23日、10月14日、
11月4日は開館)、

9月17日、24日、10月15日、11月5日

開館時間

午前9時30分-午後5時30分

※入館は閉館の30分前まで

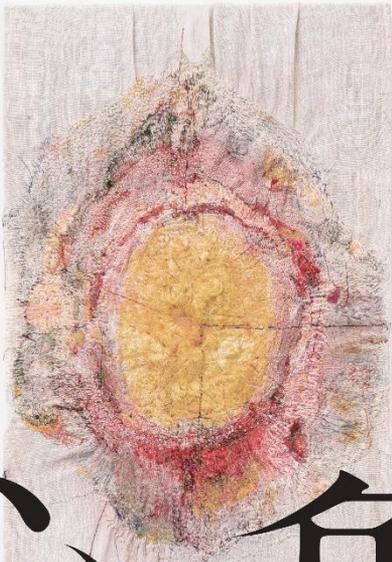
観覧料

一般 1,000円 (900円)

大学生 800円 (700円)

高校生 500円 (400円)

※()内は20名以上の団体料金・割引料金



September 6 - December 1, 2024
National Crafts Museum

心象展

工 Imaginal 芸 Crafts 展

2024年9月6日(金) - 12月1日(日) 開館時間: 午前9時30分 - 午後5時30分 (入館は閉館の30分前まで)
休館日: 月曜日(ただし9/16、23、10/14、11/4は開館)、9/17(金)、24(金)、10/15(金)、11/5(日) 主催: 国立工芸館
Hours: 9:30 - 17:30 (Admission until 30 minutes before closing. Closed on Mondays (except September 16, 23, October 14 and November 4), September 17, October 14 and November 4. Organized: National Crafts Museum)

国立工芸館
National Crafts Museum